

ピース

第4号

2010. 01. 26

「満蒙は日本の生命線」か？

満州をめぐる3人の主張のうち、誰の主張を支持するのかを考えました。「大陸進出積極論」の田中義一、「大陸進出消極論」の幣原喜重郎、「植民地放棄論」の石橋湛山という、いずれも内閣総理大臣経験者の3人でした。それぞれ「一理あるかなあ」とも思いましたし、みんなが発言した内容を聞いていて「なるほどなあ」とも思いました。このあと満州、中国、世界との関係はどうなっていくのでしょうか…。



【石橋湛山】

当時は戦争が多くて、勝つために金や人をたくさん犠牲にしてきました。でも戦争をしなければ、（世界恐慌の影響で）国が貧国になったとしても、産業などで国を開発して、他国とたくさん貿易すれば、お互いにとっていいことだと思いました。そして、そもそも戦争にもならなかったかもしれません。戦争は欲のかたまりなので、人間の欲を直せば、昔も今も平和な世界になると思いました。

【田中義一】

（世界恐慌で）今とても苦しい生活をしているので、もっと豊かに発展していくためには、やはり満蒙の開拓は必要だと思います。そして今まで何十万人もの人々の命を犠牲にして獲得した土地なので、最大限に使わなければいけないと思います。もしこの満蒙を使わなければ、亡くなっていった人々に申し訳ないと思います。そしてもっと（満州を日本のために）発展させていけばいいと思いました。

【田中義一】

資源に限りがある日本の将来のために、世界恐慌に対して素早く中国の資源を利用することを考えていたから田中義一さんを支持します。日本を強くしていこうとするところと、満蒙を開発しようとしているところがいいと思いました。



【石橋湛山】

植民地をすべて放棄することはしない方がいいかもしれないけど、（植民地というのは）ある国の人々が他の国に支配されてしまうことだから、やはり植民地はすべて放棄した方がいいと思った。（石橋さんは）田中義一さんや幣原喜重郎さんよりお金の使い方を考えているのでいいと思うけど、やはり最低限の軍備は必要だと思った。